

棟が2つ増えます病棟が2つ増えるという事はそれぞれ30人ぐらいずつ必要になってきますので、60人ぐらいは配置しなければという事です。

そんなに応募自体がありませんので、いまいる人の中で人材をどんな風に工面するかという事を考えておりました。そして、それも引越は9月になっておりますのでまずは目の前の4月の体制をどうするかという事を考えておりました。そして半年後の9月、どんな風にしたら良いかという事で、2段階に考えている最中でございます。

新しい病棟が出来るという事は今いる人材をどんな風に配置しようか、そこにどうゆう師長を配置してどうゆう係長を配置し、新しい組織を作っていくのかなという事を思い悩んでいます。

緩和ケアに関しましては、一昨年から緩和ケアの先生が大阪のほうから来て、病院の中に緩和ケアの病床を3つだけ持つていたんですね。1つの病棟に1床、違う病棟に1床という事で地ならし的に3床だけありました。

緩和ケア開設のために研修会を開きながら、部門長を育成していかなければ、すぐケアは出来ませんで、そういった準備を進めながら研修を修了しているのは誰なんだろうとか、緩和に関心ある人はどうなんだろうかという事で、毎年看護師には意向調査を行っております。

もし退職の意向があればとか、勤務移動どこを希望しますかとか、新しく緩和ケア病棟が出来ますけれどあなたは勤務出来ますかとか、その年その年で必要



なトピックスを含めながら、意向調査とすることで希望を調査しています。600数十人分の意向がどうゆうふうになるかということも毎年加味しながら実施しています。ただ100パーセント希望をかなえるという事はできないのが現実で、希望に沿いたいとおもっています。それが何か、判っていたらかなければならない部分かなということ

まず人員の確保、そしてその確保したことは医療事故が起こることです。事故と

と、周りの人に助けられてここにいます。なかなかここにきてる人が、ここに自分存

曲がったほうに引いたら、600人を引き連れてますのでね。そこを間違ったら大変な事になります。いろいろ人から情報をお願いながら進んでいかなければいけないなと思って

今日のご多忙の処、ありがとうございます。一同 ありがとうございます。〈出席〉上野看護部長(北見赤十字病院)、廣川総務課長(同)、谷川(会代表)、逢坂(同副代表)、阿久津(同事務局長)、阿部孝(同会計)古澤(同監査)、表(同理事)、長南(同)、中田(同)以上。

逢坂 看護部長さんは人生の大部分を看護の世界でお過ごしになっていきます。楽しいこと、悲しいこといろいろ在ったと思います。家庭のことや日頃考えていることなど、差し支えない範囲でお話を願います。

仕事では副部長とか師長とかそういう人達に助けられて今、ここに自分が存在しているなと本当に感謝しながらいます。その人達をサポートしたいなと思っております。やはり人のことだとか厳しく言わなければいけない状況もありますので、そこは病院全体のことを考えながら、今の立ち位置があるといえますのでね。そういった意味で視野を広く持ちながらやっていかなければ



見た部分も言ってくださったほうが、有難いと思えますので、今後ともよろしくお願いいたします。谷川 今回、念願がかなって看護部長さんを迎え、お話を聴く機会に恵まれ、病院の中のことが今までの何倍もよく見えるようになり、良かったなと思えます。これからは市民に向けて、このような場を作る努力をしていきいと思っております。

看護部と私